



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月10日
上場取引所 東

上場会社名 日邦産業株式会社
コード番号 9913 URL <https://www.nip.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長 (氏名) 岩佐 恭知
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 コーポレート本部長 (氏名) 三上 仙智 (TEL) 052-218-3161
四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	32,651	△3.0	1,017	80.2	867	103.7	796	210.4
2019年3月期第3四半期	33,647	3.2	564	△5.8	425	△12.0	256	△61.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 688百万円(—%) 2019年3月期第3四半期 45百万円(△96.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	88.27	—
2019年3月期第3四半期	28.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	28,656	9,774	34.1
2019年3月期	29,288	9,602	32.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 9,773百万円 2019年3月期 9,374百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	45,000	1.2	1,100	70.1	850	87.9	430	—
								47.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	9,127,338株	2019年3月期	9,127,338株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	91,103株	2019年3月期	130,913株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	9,017,982株	2019年3月期3Q	8,961,974株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、製造業を中心に輸出や生産活動の弱さがみられたものの、雇用・所得環境の改善が進み、穏やかな回復が続く中で推移しました。一方の世界経済は、中国経済の先行きや通商問題を巡る動向、英国EU離脱の影響など、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループでは「中期経営計画2019」の最終年度として、方針として掲げた「事業の選択と捨象」をやりきることと、将来の経営基盤を強化するための「強みづくり」の活動に集中し、実直な受注活動と改善活動を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は32,651百万円（前年同期比3.0%減）、営業利益は1,017百万円（前年同期比80.2%増）、経常利益は867百万円（前年同期比103.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は796百万円（前年同期比210.4%増）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいております。

・エレクトロニクス

電子部品及び住宅設備の関連メーカーに対して、専門商社として、またファブレスメーカーとして、高機能材料、加工部品、治具及び機器等を国内外で販売しております。

当該事業の業績は、スマートフォン関連の需要低迷が続き、電子部品メーカー向けの高機能材料の受注が減少しましたが、顧客の製品開発の段階から関与してきた燃料電池関連部材の受注と石膏製造などの試作受注が増加した影響を受ける中で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当セグメントの売上高は13,017百万円（前年同期比9.0%減）、セグメント利益は762百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

・モビリティ

自動車メーカー及び自動車部品メーカーに対して、電子制御関連部品を核とした樹脂成形品及び同組立品を国内外で製造・販売しております。

当該事業の業績は、アセアン主力工場が顧客の受注調整による影響を受けましたが、稲沢工場の巻線関連部品の受注が堅調に推移したことにあわせ、前連結会計年度に行った固定資産の減損処理による減価償却費の負担軽減の影響を受ける中で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当セグメントの売上高は13,770百万円（前年同期比6.1%増）、セグメント利益は681百万円（前年同期比855.3%増）となりました。

・医療・精密機器

オフィスオートメーション、デジタルイメージング、医療機器等の関連メーカーに対して、樹脂成形品の製造及び販売を国内外で展開しております。

当該事業の業績は、プリンター関連部品の受注が減少したことと合わせ、医療機器関連部品の受注も減少したことの影響を受ける中で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当セグメントの売上高は5,329百万円（前年同期比10.9%減）、セグメント利益は201百万円（前年同期比40.7%減）となりました。

・その他

報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内関係会社の研磨用キャリア事業等を含んでおります。当該事業の業績は、研磨用キャリアの受注が堅調に継続する中で推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるその他の売上高は716百万円（前年同期比8.6%増）、セグメント利益は107百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて254百万円増加し15,619百万円となりました。

これは受取手形及び売掛金が638百万円減少したものの、電子記録債権が650百万円、未収入金が169百万円増加したことなどが主な要因となっております。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末に比べて886百万円減少し13,036百万円となりました。

これは連結子会社であるFNA MECHATRONICS MEXICO S.A. de C.V.の金属プレス事業を事業譲渡した影響もあり、機械装置及び運搬具（純額）が677百万円減少したことなどが主な要因となっております。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べて631百万円減少し28,656百万円となりました。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて374百万円増加し12,622百万円となりました。

これは割賦債務の増加等により、その他流動負債が219百万円、支払手形及び買掛金が167百万円増加したことなどが主な要因となっております。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1,177百万円減少し6,259百万円となりました。

これは割賦債務の増加等により、その他固定負債が727百万円増加したものの、連結子会社であるFNA MECHATRONICS MEXICO S.A. de C.V.の金属プレス事業を事業譲渡した影響もあり、長期借入金が1,934百万円減少したことなどが主な要因となっております。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べて803百万円減少し18,882百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて172百万円増加し9,774百万円となりました。

これは資本剰余金が751百万円減少し、利益剰余金が1,140百万円増加したことなどが主な要因となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は堅調に推移しておりますが、米中をはじめとする通商問題の影響等により、主要顧客の生産計画に下方修正が継続していることとあわせ、新型コロナウイルスの拡大による国内外経済への影響を読み切れないことより、2019年5月14日に公表しました連結業績予想値である売上高45,000百万円、営業利益1,100百万円、経常利益850百万円、親会社株主に帰属する当期純利益430百万円を据え置いております。

しかしながら、未定としておりました期末の配当予想につきましては、第4四半期連結会計期間において不透明な経済環境のマイナス影響は受けるだろうものの、復配ができる見通しに至りましたので、1株当たりの配当予想を「未定」から「10円」に修正させていただくこととしました。

翌期以降も持続的な成長を定量目標におき、これにあわせて増配していくことに努めてまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,943	4,849
受取手形及び売掛金	6,861	6,222
電子記録債権	599	1,249
商品及び製品	1,171	1,304
仕掛品	421	471
原材料及び貯蔵品	786	730
未収入金	438	607
その他	148	190
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	15,365	15,619
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,452	9,698
減価償却累計額	△4,318	△4,586
建物及び構築物（純額）	5,134	5,112
機械装置及び運搬具	9,884	9,574
減価償却累計額	△6,748	△7,116
機械装置及び運搬具（純額）	3,135	2,458
工具、器具及び備品	806	872
減価償却累計額	△591	△636
工具、器具及び備品（純額）	215	236
土地	1,713	1,655
建設仮勘定	812	796
有形固定資産合計	11,011	10,258
無形固定資産		
その他	115	123
無形固定資産合計	115	123
投資その他の資産		
投資有価証券	1,483	1,348
退職給付に係る資産	19	14
繰延税金資産	8	4
その他	1,305	1,299
貸倒引当金	△20	△12
投資その他の資産合計	2,795	2,654
固定資産合計	13,922	13,036
資産合計	29,288	28,656

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,318	7,486
短期借入金	1,876	1,743
1年内返済予定の長期借入金	821	891
リース債務	359	383
未払法人税等	88	108
賞与引当金	309	316
その他	1,472	1,691
流動負債合計	12,248	12,622
固定負債		
長期借入金	4,588	2,653
リース債務	677	513
繰延税金負債	458	500
再評価に係る繰延税金負債	2	2
環境対策引当金	11	11
退職給付に係る負債	1,383	1,548
資産除去債務	133	119
その他	181	909
固定負債合計	7,437	6,259
負債合計	19,685	18,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,137	3,137
資本剰余金	1,363	612
利益剰余金	4,169	5,310
自己株式	△39	△30
株主資本合計	8,631	9,030
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	43
土地再評価差額金	5	5
為替換算調整勘定	681	712
退職給付に係る調整累計額	5	△18
その他の包括利益累計額合計	743	743
非支配株主持分	228	1
純資産合計	9,602	9,774
負債純資産合計	29,288	28,656

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	33,647	32,651
売上原価	29,487	27,956
売上総利益	4,160	4,695
販売費及び一般管理費	3,595	3,677
営業利益	564	1,017
営業外収益		
受取利息	16	13
受取配当金	56	18
スクラップ売却益	23	24
その他	50	35
営業外収益合計	147	91
営業外費用		
支払利息	139	182
電子記録債権売却損	9	9
為替差損	99	28
その他	38	20
営業外費用合計	286	240
経常利益	425	867
特別利益		
固定資産売却益	10	15
投資有価証券売却益	29	45
事業譲渡益	—	53
その他	—	7
特別利益合計	39	121
特別損失		
固定資産処分損	4	10
投資有価証券売却損	—	0
事業整理損	101	37
その他	23	—
特別損失合計	130	47
税金等調整前四半期純利益	335	941
法人税、住民税及び事業税	141	162
法人税等調整額	76	88
法人税等合計	217	250
四半期純利益	118	691
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△138	△104
親会社株主に帰属する四半期純利益	256	796

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	118	691
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△159	△6
為替換算調整勘定	87	27
退職給付に係る調整額	—	△23
その他の包括利益合計	△72	△2
四半期包括利益	45	688
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	186	796
非支配株主に係る四半期包括利益	△140	△107

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年6月21日開催の定時株主総会の決議により、2019年6月24日付で、資本準備金を344百万円減少し、その他資本剰余金に振り替えた後、同日付でその他資本剰余金を344百万円減少し、繰越利益剰余金に振り替え、欠損填補を行っております。

また、2019年11月25日付で連結子会社であるFNA MECHATRONICS MEXICO S.A. de C.V. の株式を非支配株主から追加取得し、資本剰余金が406百万円減少しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エレクトロ ニクス	モビリティ	医療・ 精密機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	14,307	12,957	5,898	33,164	483	33,647	—	33,647
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	15	84	100	177	277	△277	—
計	14,307	12,973	5,983	33,264	660	33,925	△277	33,647
セグメント利益	731	71	340	1,142	103	1,246	△681	564

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、研磨用キャリア事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△681百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△592百万円等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エレクトロ ニクス	モビリティ	医療・ 精密機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,017	13,757	5,316	32,090	560	32,651	—	32,651
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	13	13	27	155	182	△182	—
計	13,017	13,770	5,329	32,117	716	32,834	△182	32,651
セグメント利益	762	681	201	1,645	107	1,752	△735	1,017

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、研磨用キャリア事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△735百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△701百万円等が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来「モビリティ」「エレクトロニクス」「精密機器」「住宅設備」の4つを報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より「モビリティ」「医療・精密機器」及び「エレクトロニクス」の3つの報告セグメントに変更いたしました。

従来「住宅設備」及び「その他」に集計しておりましたRFID事業は、家庭用燃料電池関連の高機能部材やRFID関連製品の製造プロセス部材など、エレクトロニクス事業で取り扱う類似製品の展開が進んできており、エレクトロニクス分野一体での管理・強化を図る観点から、報告セグメントを「エレクトロニクス」に集約することが望ましいと考え変更いたしました。

あわせて、従来「その他」に集計しておりました日邦メカトロニクス株式会社の事業内容が、モビリティ事業へシフトしてきていることから、報告セグメントを「モビリティ」に変更いたしました。

なお、全社費用を各報告セグメントに配賦しておりましたが、グループ経営全体に係る費用としての特色が強くなってきたことから、各報告セグメントの業績をより適正に反映させるために、「全社費用」として計上する方法に変更しております。

また、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

従来「精密機器」と表示していたセグメントの名称を「医療・精密機器」に変更しております。セグメント名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。